



春爛漫の季節を迎えました。マスクを外す機会も増えましたね。陽光を浴び、新鮮な空気を吸い込み深呼吸！心も身体もリフレッシュしましょう。

さて、「そらいろ」は、開設後9年目を迎えました。この間、宇部市をはじめ多くの関係機関や市民の皆様のご支援とご協力をいただき、深くお礼を申し上げます。

## 相談支援の現場から伝えたい

### 就学期からの切れ目のない支援

今回は、青年期や成人期の方々のご相談を通しての課題と支援についてお話しします。実は、相談の場で、「職場の人間関係につまずきひきこもった」「離職を繰り返し自信が無い」「うつ病になり休職中である」「発達障害と診断された。就労について相談したい」等があります。この時、何故、社会に出て数年経過した今なのだろうか？ 就学中に本人自身も他の誰も気づくことなく、また困ることはなかったのか。相談や受診、支援に至らなかったのは何故なのか。もう少し早い時期、就学中から支援できていれば、自信を無くしたり、二次障害に至らずに生活できていたのでは？と思いを巡らせます。

そこで、相談者Aさんとの関わりをご紹介します。「就学期からの切れ目のない支援」の大切さについて、考えてみたいと思います。



Aさん 20歳代 男性

「大学では、授業についていくのがやっと。どうにか卒業したが、コミュニケーションが苦手で、誰にも相談することができず、就活は卒業後から開始。半年後に就職したが、叱られることばかり。2週間余りで退職。再就職したが転職の繰り返し。何故叱られるのか理解できなかつた。もう就職は怖い、しばらく休んで次のことを考えたい。」とAさんは、小さな声で語りました。更に、母親から生い立ちや学習面や友人関係、趣味や得意不得意なこと等語られ、退職に至った要因や本人の特徴が徐々に分かってきました。

そこで、Aさん親子に受診や診断のメリットを伝えたところ、受診に繋がり、発達障害があると診断されました。

また、知的障害者更生相談所にも相談に行き、療育手帳が交付されました。

大学卒業後1年半が経過した時点でやっと、彼に配慮が必要であるという「根拠」が分かったのです。本人も周囲の人たちも、彼の障害に気づくことなく、適切な配慮や支援がない環境で過ごしたことが自信喪失に繋がり、「就労することは怖い」と考えるようになったのですね。

彼は、自分の障害を少しずつ理解し支援を受けることを決めました。そこで、福祉サービスについての説明を行い、いくつかの福祉サービス事業所への同伴見学やサービスの利用申請を行い、サービスの利用が開始。その後も、人間関係や聴覚過敏、胃腸障害で悩み、受診。治療も開始しました。最終的には、就労移行支援事業所に通所し就労定着支援を受け、障害者枠での就労に繋がったのです。相談開始から、約3年経過していました。

その後、関係機関が連携してケア会議を開催し、協働で支援すること、さらに個別で本人の話を聴く場や安心して相談できる支援者の存在が本人の歩みを支えていきました。自信を回復するには長い時間と障害を理解した上での配慮・支援が重要です。

先日、「当事者の声を聞く会」を開催した際、登壇した当事者の方が、「診断はできるだけ早い方がよい。早ければ、早いに越したことはない。その時期に必要な支援がある」と、述べられたことが記憶に残っています。

診断が絶対的なものではありませんが、その診断過程で得られた情報や検査結果などは、その人の特性に合う職業選択、進路選択、合理的配慮などにおいて重要な情報で、大きなメリットがあります。治療が開始されることもあるとでしょう。

それら全ては、その本人の未来をみずすため、幸せの実現のための一歩になるとも言えます。

ですから、私たち関係者や関係機関の「顔の見えるネットワークづくり」ができれば、気づいた時に相談し合い、適切な相談機関に繋ぐことができるのではないのでしょうか。

特に、教育機関の皆様方、目の前の気になる生徒さんや学生さんに声を掛けませんか。勇気を出して！

「これまでに、困ったことはありませんか。」「友人はいまですか。誰かに相談していますか。」「友達関係や学習面で困っていることはないですか？」と。

もしも、気づいた時には、「そらいろ」にもお声をいただければと思います。

**共に繋がりましょう！切れ目のない支援で、誰も取り残さないために。**

# 自助グループのご紹介

そらいろでは月に一回自助グループを開催しています。今回は当事者グループについてご紹介します。当事者同士が繋がり、悩みを共有しながら支え合える仲間づくりの場となっています。

## すいせんの会

就労していない当事者の会です。日々の出来事や趣味の話、カードゲームなどをして過ごします。コロナ禍前には近くの公園で花見をしたこともあります。参加者の皆様がお互いに励まし合ったり情報交換をしながら時間を過ごせる場所となっています。

## なごみの会

就労している当事者の会です。参加者の皆様はお仕事をされている方々のため、ご参加いただきやすいように遅い時間に開催しています。仕事上での困りや嬉しかったことなどを中心に様々な話をして交流を深めています。お互いの会話から当事者研究を行う場ともなっています。

自助グループにご興味のある方はまずご相談ください。



## 発達障害啓発週間

毎年4月2日～8日は発達障害啓発週間です。宇部市ではときわ公園の大観覧車が自閉症のシンボルカラーであるブルーにライトアップされたり、図書館に発達障害に関する書籍を紹介するブースが設置されたりします。

ぜひこの機会にときわ公園や図書館に足を運んでみませんか？

今年はコロナ禍以降、久々にときわウォークを開催します。例年幅広い年代の方々にご参加いただいています。青色のものを身に付けてときわ公園を歩きましょう!!

日時：令和5年4月7日(金) 10:30～  
集合場所：ときわ湖水ホール大展示ホール

※新型コロナウイルスの感染状況によっては中止となることもあります。



## スタッフのひとりごと

「忙しすぎて心に余裕がなくなったとき、季節の移り変わりがわからなかった。」といった先輩のことばが忘れられません。

通勤路にきれいな花が咲いていることや、新緑の美しさに全く気がつかず、そのことがとてもショックだったそうで、このままではいけないとその仕事から離れる決心をしたと話してくれました。

それ以来、自分にとって心の状態をはかる基準は、自然の美しさを感じられるかどうかです。今日も目の前には青く澄んだ空が広がり、大きな白い雲が流れています。

宇部市発達障害等相談センターそらいろ  
(宇部市多世代ふれあいセンター5階)  
TEL: 0836-43-6777

宇部市 そらいろ

検索



←Facebook  
QRコード